

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 NPO 大泉国際教育技術普及センター

1 事業の趣旨・目的

日本の学校への進学を具体的に考えている外国籍の子どもたちに焦点をあて、彼らが日本における自分たちの将来の夢を具体的に描けるための、そしてそれを実質的に後押しする日本の制度に則した「学歴」、あるいは日伯の架け橋として貢献できる「学歴」取得のための日本語能力を養成する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
5月28日	拝野、辻本、戸澤、中西、阿部、堀江、戸澤(順)、井上	<ul style="list-style-type: none"> 講座開催の主旨 どのようにして受講者を選出したか 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者に本講座に選ばれたことを理解させる 質疑応答
7月2日	拝野、辻本、戸澤、中西、阿部、堀江、戸澤(順)、井上	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の授業での受講者の様子を見て、課題及び反省点を探る 質疑応答
11月5日	拝野、辻本、戸澤、中西、阿部、堀江、戸澤(順)、井上	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告 受講者数名による質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者からの質問、相談を聞く 質疑応答
12月10日	拝野、辻本、戸澤、中西、阿部、堀江、戸澤(順)、井上	<ul style="list-style-type: none"> 終了報告 受講者数名による報告 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者から感想を聞く 今後の課題として指導者をどう養成していくか 質疑応答

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 日本の高校に就学または就学希望の日系ブラジル人子弟向けの日本語力・国語力講座
- ② 開催場所 日伯学園（邑楽町校舎）
- ③ 学習目標
 - ・日本でこれからも生活したいと望む日系ブラジル人子弟に向けて、日本の高校資格取得を実現するための日本語力・国語力のレベルアップを目指す。
 - ・高校に通う日系ブラジル人子弟を無事卒業に導く事を目的とし、卒業後の進学を目標とできるように日本語力・国語力のレベルアップを目指す。
- ④ 使用した教材・リソース
日本語文法がわかる事典、ケーススタディー日本文法、やさしい文法-ことばのきまり、口語文法ノート、新しいことばのきまり、漢字検定完全対応-文字力王
- ⑤ 受講者の募集方法
地域のブラジル人商店にポスターを掲示および配布でよびかけるほか、知人、友人など人的ネットワークを駆使する。
(※どこでどのような媒体を使って募集したかを記載。なお、募集のチラシ等があれば添付すること。)
- ⑥ 受講者の総数 12 人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数 (回数) 50 時間 (全 25 回)

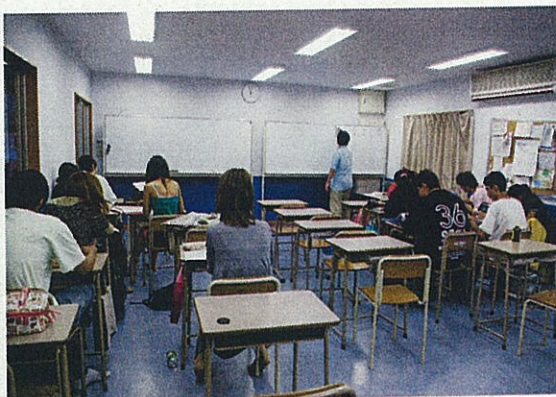
⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	5月28日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
2	6月4日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
3	6月11日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
4	6月18日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
5	6月25日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
6	7月2日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
7	7月9日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
8	7月16日 18:30-20:30	2時間	12人	ブラジル・ポ語(12人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
9	7月23日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
10	7月30日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	語彙の強化学習
11	8月6日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	国語力の強化学習
12	8月20日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	国語力の強化学習
13	8月27日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	国語力の強化学習
14	9月3日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	国語力の強化学習
15	9月10日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	国語力の強化学習
16	9月17日 18:30-20:30	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人 補助者2人	国語力の強化学習
17	9月24日	2時間	11人	ブラジル・ポ語(11人)	教授者2人	国語力の強化

	18:30-20:30				補助者 2人	学習
18	10月1日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	国語力の強化 学習
19	10月8日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	国語力の強化 学習
20	10月15日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	国語力の強化 学習
21	10月22日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	手紙の書き方 学習
22	10月29日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	手紙の書き方 学習
23	11月5日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	手紙の書き方 学習
24	11月12日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	手紙の書き方 学習
25	11月19日 18:30-20:30	2時間	10人	ブラジル・ポ語 (10人)	教授者 2人 補助者 2人	手紙の書き方 学習

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

(特徴が最もよく表れた日の授業報告を詳細に記載。また、教室風景の写真を数枚添付。)



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
阿部 勇次郎	ポルトガル語	17年	1回	通訳

	ブラジル			
堀江 幸男	ポルトガル語 ブラジル	19年	1回	通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
野山 広	国立国語研究所 日本語教育研究・ 情報センター 上 級研究員		1回	アドバイザー
江副 隆秀	(学) 新宿日本語 学校(校長) 日本 語教育(修士)		1回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

単語の解説、活用のある自立語(動詞・形容詞・形容動詞)の働きと活用の仕方の解説、活用のない自立語(名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞)の働きの解説、助詞について。国語辞典の活用法。

② 学習者の習得状況

用言の活用や自立語の各品詞の働きについては、よく理解できた。ただ、補助用言・形式名詞の理解が少し難しかった。助詞については全体的な働きについては理解できたものの、細部については時間不足のため十分な理解は得られなかった。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

日本語を体系的に学べる機会を作るという点で、大いに効果・成果があったと考える。特に、後期中等教育課程就学年齢の外国籍生徒が、日本語というよりは国語を集中的に無料で学べる機会是全国的にもきわめて稀であろう。そのような先駆的な取り組みを行えた点も、十分評価に値いすると思われる。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

地域関係者と連携する機会を得ることで、率直な意見交換を行い、日本語についての困り具合を具体的にうかがうことができ、よかったと考える。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

初めての試みであったため、準備不足は否めなかった。特に時間不足は重要なポイントといえる。また、日本の学校で使用する口語文法をそのまま使用するにはかなり

問題があるといえる。とはいえ、日本語教師テキストにあるような文法では煩瑣すぎて日本語の全体像が見えにくく、適当なところがない。

b. 今後の課題

日本の学校で使用する口語文法を土台に、外国人への日本語の指導法を考えていく工夫が必要であると考え。そのためにはまず、文法的説明を軸とした国語教育を考えていかなければならないように思われる。

c. 今後の活動予定, 展望

現状と課題を踏まえ、日本の学校で使用する口語文法を土台に、他の文法研究の成果を必要であれば積極的に取り入れ、文法的説明を軸とした国語教育の研究をできればと考えている。

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えのないものを添付すること。

